



選考委員特別賞
那須正幹賞

あさがおとようせい

LC A 国際小学校 一年

森光 唯

「おはよう。」

あさおきて、かぞくのいるダイニングルームにいった。かとりせんこうのにおいがして、まどがあいているのがわかった。カーテンがひらいてあかるかった。

わたしの目が大きくなった。

「一、二、三、四、五、六、七。」

よこや上から見て、目でかぞえた。こいむらさきや、ピンクいろのあさがおの花がさいている。白いふちどりがあつた。フラメンコスカートが、クルッとまわって、ひろがつたみたい。

はちを一しゆうした。

いろんなほうこうにさいていた。わたしのひざぐらいのところにあつまっていた。しゃがむとよくみえて、さわつてみたくなつた。

うすくてやわらかい。すべすべしていて、わたしの足のうらみたいにしめつていた。

つばみもたくさんあつた。けしゴムみたいにかたくて、ふでのさきみたい。パジャマをギョッと、ゆびさきでつよくねじつたようなつばみもあつた。

四月のすずしいころ、学校でたねをまいた。はん円のようなかたち。さわると、くだもののかきのたねみたいにかたかつた。手のひらにのせてよくみると、キラキラ光つて見えた。わたしのさしゆびをまっすぐ土の中に入れて、たねを一つぶおとした。はちの中で、まわりの土をよせてうめた。八つぶくらい、たねをまいた。

はつばは、わたしの手をひろげたくらい大きくて、きゆうりみたいにこいみどりいろをしている。はつばがかさなつて、土があまりみえない。つるは、さおにクルッ

と、やさしくまきついて、赤ちゃんのはっぱがついていてた。はっぱもつるも白いけがはえていた。わたしのおでこみたいにやわらかいとおもったけど、さわるとシャリシャリ音がした。

立ち上がって、ビックリした。

きのう水いろだった花が、しぼむころにはこいむらさきいろになっていた。マジックみたい。

わたしのあさがおには、ようせいがいるとおもった。ねがいごとをかなえてくれるようせい。花のかずだけ、ようせいも生まれてくる。わたしがねているときに、つぎの花がさくじゅんびをしているの。

あさがおの花の上で、キラッと光るものがあつた。

おねえさんのように、わたしをみまもってくれているようなきがした。

「いってきます！」

ハッピーな気もちになっていえをでた。

あつい八月、あさがおの花は、花火みたいに、まだまだださいた。花がおちると、きみどり色のみが、ゆっくり

ふくらんだ。

九月、はっぱがすくなくなつた。かれてきたみたい。き色やきみどり、みどりのはっぱが、つるの上のほうにあつた。でも、土から一センチメートルくらいのところ

に、赤ちゃんのはっぱが出ていた。

「うわ!!すごい!」
はっぱのかたちがちがう。かへのつめのように右がギザギザ、左がギザギザ、どっちもギザギザ、まるくてほそながいはっぱもあつた。あさがおのはっぱは、ひらがなのひのかたちだけじゃないんだ。

たねをとろうとおもって、ちやいろいろいみをさがした。大きなほしが手をひろげて、まん中に、たまねぎみたいにまるいみがついていた。小さいのも大きいのもあつた。三本のゆびでみをつまんだ。かたかった。パリパリと一まいのかわをむくと、くろいたねが見えた。手のひらにころがした。みの中は、三つにわかれて、たねが、一つか二つにわかれて、きれいならんでいた。五つ入っているのもあつたし、一つのもあつた。三つのも、四つ

のもあった。

かんさつしようとおもって、つるからみをとった。たねをとって、ほしの足を下へのばすと、うみのいかのような足になった。みのからがまるくて、あたまに見える。足は五本しかない。足をそろえると、クリオネのように見えた。

もしかしてようせい？

あたらしいたねになって、らい年、花がさくころ、またあえる気がする。